

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2024年2月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2024年2月9日～2月29日
- 調査対象 200社
- 回答企業 123社
- 回収率 61.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の2月の状況を見ると業況DIは、前月より4.1ポイント悪化の▲24.4となった。

2017年9月以来78ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲22.8、当月と比べ1.6ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2023年 9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	先行き見通し 2024年3月～ 2024年5月
業況	▲14.0	▲18.1	▲19.7	▲22.8	▲20.3	▲24.4	▲22.8
売上	▲0.7	▲5.5	▲3.9	▲13.4	▲5.3	▲14.7	▲13.0
採算	▲12.6	▲17.3	▲17.3	▲24.4	▲21.1	▲25.2	▲22.8
仕入単価	▲63.7	▲55.1	▲60.7	▲59.8	▲57.9	▲59.4	▲56.1
販売単価	27.5	24.4	26.7	26.0	27.0	25.2	26.0
従業員	34.8	37.0	32.3	33.1	33.0	30.0	33.3
資金繰り	▲9.6	▲9.5	▲8.7	▲8.7	▲12.0	▲13.8	▲14.7

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2023年 9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	先行き見通し 2024年3月～ 2024年5月
建設	▲33.3	▲20.0	▲37.9	▲31.0	▲31.0	▲36.7	▲33.3
製造	▲3.5	▲27.6	▲21.2	▲23.4	▲15.6	▲32.3	▲25.8
卸売	▲10.0	▲6.7	▲3.4	▲16.6	▲17.3	▲16.6	▲12.5
小売	▲19.1	▲25.0	▲15.8	▲25.0	▲27.3	▲21.0	▲26.3
サービス	0.0	▲11.1	▲17.7	▲16.7	▲9.5	▲5.2	▲10.5

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・特に民間建築工事において、職人(技能労働者)の時間外労働時間規制を守りながら現場を回せていけるのかどうか、今年いっぱい注視が必要である。(総合工事) ・工事量は昨年の同期と比べて可もなく不可もなく、採算性については、企業物価指数で示されている通り高止まり状態のため、あまり変化はない。向こう3か月の工事量は昨年と比べ減少するものの、工事量は徐々に増加が見込まれておりコストアップがなければ業績は好転するものと思われる。しかし、官製春闘がもたらす賃上げの風は、自社の労務費アップと仕入れ先の価格上昇を招き、当社も価格転嫁できなければ採算性の悪化が危ぶまれる。(設備・その他) ・ウッドショックによる建材の高値感感は薄らいできているが、その他資材・設備の価格は依然上昇している。モデルハウスの来場者数の減少が物語るとおり住宅新築マインドの先細り感否めず、景況感は悪化している。打開策として、現在ホームページのリニューアルに取り組んでおり、弊社住宅のPR強化による集客拡大を目指している。(建築業)
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でしばらくOEMが少なかったが、今月依頼が相次いでいる。来月もOEMの依頼があるので、売上の減少幅を小さくできそうだが、これから農作業が始まるため、人員募集をかけて補いたい。(食料品) ・物価高・エネルギーコスト高の影響で予想していた以上に消費が冷え込んでいる感じがする。中小零細企業の売上げが上がりなければ社員の給与アップも難しいのが現状。(家具・木材) ・検査者の人手不足を補いたいが新規採用は厳しい。(金属窯業他)
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料の値上げ、経費の高騰に商品価格が見合っていないため、販売価格の値上げを行い新商品の導入を検討。(飲食料品) ・前年度より若干の売上増加である。2か月程は今月と同等の売上規模になる見込み。(機械鋼材) ・コスト上昇、販売価格に転嫁できるかが不安材料であり、経費・仕入等の上昇により利益の減。(その他) ・当月の業績は、前年同月に比べ売上は若干減少する。新年度2月目に入り先の営業会議では本年度目標は、新規取引先の拡大を目指し、そこから深耕を図ることで、落ち込み分をカバーすることで一致した。また、採用計画については営業担当者を2名募集する計画である。(その他)
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・2月季節(シーズン)の衣料冬物から春物への入替えの時期。気温がプラス10℃以上となり店内商品も70%以上春物商品になった。来店客が少ない来店時には天候(気温)の状況により、冬物商品はセールプライス(30%~50%off)で売り逃しのないように対応し、売上を確保する。(衣服身回品) ・昨年は商品値上げ実施したが、観光需要が好転で増収増益となった。今期も原材料・人件費上昇が見込まれ、再度商品価格値上げを実施予定。昨年まで増収傾向だったが、だんだん弱含みとなり、その勢いはなくなる予想。多少の減収を織り込んだ中で、コスト上昇分に見合う値上げとなる。今後は、適正利ザヤ確保と効率化が重要課題となる。(食料品) ・補助廃止後の仕入価格の上昇。(その他) ・決算期による需要の増加・販売単価の上昇により、前年対比で売上は増加すると見込んでいる。しかし、来年度からは賃上げを予定しており、仕入単価の上昇・設備投資を考慮すると今後採算は悪化すると予想している。(自動車)
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料・エネルギー価格等のコスト増。(ホテル・旅館) ・観光客が増加し入出が多く、売上は増加しているが人手不足が続いている。(飲食) ・季節的にも降雪期は増収時期であるが、やっとコロナ以前の90%超まで戻ってきた。特に観光関連の路線が好調維持。2024問題のための勤務管理システムの再構築や、新紙幣対応両替機、また増えている外国人を意識したキャッシュレスに関しても検討を急がれる。維持更新の設備投資は不可欠であるが資金難は続く。(運送)

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI9.0 ポイント悪化、採算 DI2.0 ポイント悪化、仕入単価 DI4.5 ポイント悪化、販売単価 DI0.5 ポイント悪化、資金 DI13.1 ポイント悪化、従業員 DI14.9 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 5.7 ポイント悪化となった。業種別では、総合工事 6 ポイント改善、設備・その他 21 ポイント、建築業 4 ポイント悪化となった。売上げはやや好調。来期物件はある程度確保も職人不足気味との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI9.5 ポイント悪化、採算 DI10.1 ポイント悪化、仕入単価 DI8.0 ポイント悪化、販売単価 DI2.4 ポイント悪化、資金 DI2.9 ポイント改善、従業員 DI0.8 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 16.7 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 1 ポイント、印刷・出版 40 ポイント、家具・木材 20 ポイント、金属窯業他 13 ポイント悪化となった。新型コロナ・原材料高騰・光熱費高騰のあおりを受け、仕入先の廃業・事業縮小による仕入れが出来ない状況が増加しているとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI2.9 ポイント悪化、採算 DI2.8 ポイント悪化、仕入単価 DI6.6 ポイント改善、販売単価 DI6.1 ポイント悪化、資金 DI5.6 ポイント悪化、従業員 DI4.1 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 0.7 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、その他 33 ポイント悪化、機械鋼材横ばい、繊維・衣服等 29 ポイント、食料品 14 ポイント改善となった。4 月から仕入単価の値上げの話が出ており、いつまで続くのか先が読めないとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI15.1 ポイント悪化、採算 DI8.7 ポイント悪化、仕入単価 DI6.2 ポイント悪化、販売単価 DI14.6 ポイント悪化、資金 DI1.4 ポイント悪化、従業員 DI6.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 6.3 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品横ばい、食料品 3 ポイント、その他 9 ポイント、自動車 10 ポイント改善となった。依然、単価上昇の影響により売上は増加傾向。新規採用難が続いている。新入社員の採用数も減少。出店等対応ができないとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI9.5 ポイント悪化、採算 DI9.1 ポイント改善、仕入単価 DI9.3 ポイント改善、販売単価 DI17.8 ポイント改善、資金 DI12.3 ポイント改善、従業員 DI1.3 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 4.3 ポイント改善となった。業種別では、整備業 50 ポイント悪化、理美容・クリーニング、その他、飲食横ばい、ホテル・旅館 55 ポイント、運送 5 ポイント改善となった。コロナ明けの売り上げ好転も落ち着きを見せてきた。しかし同時に始まった仕入れ価格や経費の値上げは続いている。人件費も今後、益々多くなっていくと思われるとの声も寄せられている。</p>